川口町公民館報
公民館報
第60号
発行人 星野輝欽
編集人 金子真
印刷所 山陽堂印刷所

農業構造改善事業への考察

上村一夫

農業が他産業に比較して、その生産性があまりにも劣り生活水準に大きな格差が生じ近年特に他産業の伸びと共にその開きが大きくなりつつあるとき、農業の憲法ともいわれる農業基本法が昨年六月に成立し、今後農業の進むべき方向を示し農家の旧態よりの脱皮意慾と相俟つて将来の日本農業の形態が大きく転換しようとしております。

この法律は日本だけでなく昭和三十年に西ドイツに制定されたのを始めとして、イギリス、フランス、その他数ケ国が類似の法律を作り、近代農業の伸びについていけない農業を保護育成して、着々とその成果を上げております。

然し、こうした農業の立ち遅れの中で、案外農家の人達はこの現象に無関心なのではないでしょうか。米の統制撤廃や貿易の自由化等を目の前にして、益々苦難の前途を辿るであろう農業にたずさわる者の一人一人が真剣に考えて行かねばならぬ問題だと思います。

さて農業基本法は、その第一章で国の農業政策の目標とそれを達成するための国及び地方公共団体の施策について規定し、第二章以下で生産、価格及び流通、構造改善の各般の面にわたつてこれをふえんし、国の必要施策の方針を宣明すべき事を定め、最後に之を実施する機構として農業行政機関と農業団体について規定し、かつ農政審議会のことを規定しておりその概要については皆さんの御承知の通りであります。この基本法の示す、農業構造改善事業が、本年四月より十ケ年間に全国三千百の市町村を対象にして実施される訳なのであります。この事業費は、一億一千万円級で国庫補助四千五百万円、市町村負担四千五百万円（内約七割は融資を受けられる）農家負担二千万円（内約八割は融資対象となる）となっております。

わが川口町も、この事業の対象であり、この事業を基盤として、力強く近代化農業の町として、その第一歩をふみ出す訳であります。そこでわが川口町に於ける農業構造改善事業の問題点として、二、三私見を述べてみたいと思います。

①先づ魚沼農業の現状からして、農家所得の増大への道は一つに畑作の改善にあると考えられます。畑作の面は、深耕（二〇センチ以上）多肥に依る増収とか、優良品種の統一、樹防及び施肥技術の改善、病害虫防除の合理化による労賃の軽減等、現在の状態でもまだまだ改善検討を加える必要性は充分あるにしても、大体に於いて先進地の水準に達していると考えられるので膨れる二五〇ヘクタールの畑作の活用に重点を置く訳であります。川口町畑作振興策は重大な問題であり、今までなぜ畑作の収益が僅少であったかから掘り下げて見る必要があります。一口に言って畑作物がどんどん売れないからでないでしょうか。畑作物が充分に販売されるとしたら川口町畑作の様相は一変する事と思います。そこで買い付け場所を作ったらどうでしょう。町の強力な援助をもって、農協か農家の組織等が工場誘致にかかわる大農産加工工場を設置し、畑作物を一括買い付け消化する事になったらどうであろう。又これが川口町特産ともなればどんなにかすばらしい事ではなかろうかと推見の夢を見る者の一人であります。これには作付計画、経営方法労働力、販路等と機関の果積していることも見のがせぬ事ではありますが、畑作の高度利用の方向づけこそ山間僻地農業を救う道である点を識者各位に訴える次第であります。

②次に養蚕の振興についてでありますが、一時桑園処理として、桑樹の掘り取りまで致諾した事もありましたがその後内外の需要ののびと共に活況を呈するに至り、遠い将来はともかくとして現実の問題として、魚沼地帯の産業に欠くべからざる部門であると考えられます。現況としての改善策としては稚蚕改植による桑園施業の増産と飼育施設の改善等がありますが、問題は大稚蚕共同飼育の達成であり適地は至る所にあります。各蚕期を通じ一、二令は完備された共同飼育所で飼育し、労力の配分を計り三令以後は飼育の増進された自家桑園でまかなうとすれば現在の一七〇ヘクタールの桑園面積で約七五、〇〇〇キロ（現在より七、〇〇〇キロ増収）の繭が生産される事となります。

③次に酪農の振興でありますが川口町に於ける酪農の伸び悩みの原因は、飼料計画を含めた受け入れ態勢の不完備の所に乳牛が導入され、一、二年の短期間に大きな利益を夢見るのあまり酪農の優良事例が生れなかった所にあります。人まね酪農は慎重し無計画の一頭酪農は、らく農でなく苦農に終る公算が大であります。そこで現在牛ケ首や牛ケ島でやって居ります採草地の造成を各地に取り入れ充分なる自給飼料計画に基き、企業的多頭飼育酪農の構造こそ望ましいのではないかと考えられます。

④次に錦鯉の共同展示販売場の設置を提案いたします。山間地の特産として益々有望度を高めつつある錦鯉も内外愛好者が簡単に観賞購入出来る施設が川口駅周辺にあれば観光川口に一役かう事のみならず、販路の拡充に役立つ事大であると考えられます。

⑤最後に特に必要な改善事業として農道山林道の整備拡充があります。川口町の平坦地山沢地を問わず三輪車や耕運機程度は全部入れるようにすべきと考えられます。今後益々各種農機具が普及し、その大型化が推進される時代にある時、この問題はすべての基幹として急を要する事業の一つであります。

尚未だ川口町水田の西五％が湿田である事も見のがせぬ問題でありこれらの乾田化も併せて推進されねばならぬ事業と考えられます。

⑥又これらを総合したパイロット地区（先進指導実験地区）の設置育成も大切な事業の一つであります。

以上がその大要であり他により有効な施策が多々ある事と考えられますが、これらの事業を総括的に実施する事はいかに一個以上の資金をもってしても労多くして効果の少ない結果を招く事必条であり結局は重点的事業となる事と考えられますが要は農業収益の増大をはかるかを熱心に考え、数多くの提案を町当局なり委員各位や農業委員各位に具申して充分討議研究の期間をおき着手実行されるべきものと考えます。又これら大事業の推進母体でもある農協が強大かつ整備されていく必要性からも川口、田麦山両農協の合併推進が画策されておる訳であります。

この明日の農村造り事業が、真に豊かな町造りに役立つ改善事業でありますように皆んなの力でしなければならぬものと考えます。

（川口の農家にや、おいらも嫁に行こう）となるように。

時間を守る八ケ条

一、集る人の職場や立場を考えて始める時間と終りの時間をきめましょう
二、集まりの内容をおそくとも三日前までによくわかるよう通知しましょう
三、欠席やおくれるときは前もって主催者に連絡しましょう
四、会場では司会者の指図にしたがって定められた席に遠慮なく着きましょう
五、時間が来たらたとえ少人数でも会を始めましょう
六、発言ははっきりとよけいな雑談はさけましょう
七、司会者は定められた時間内に会が終るよう取計らいましょう
八、集まる人がおくれないように家庭も職場も協力しましょう

主唱 川口町教育委員会 川口町公民館

多額の寄付者

川口中学校創立十五周年記念事業として中庭造り事業を計画したところ之れが趣旨に賛成し西川口出身者（東京池袋）佐藤悌二郎さんからポンと金拾万円也を寄贈されたことに対し満腔の感謝の意を表しますと同時にその意を体し中庭の中央にある池噴水一式に充当させて戴き御芳名を永劫に讃え噴水台に記録します。

川西神社祭礼奉納俳句

天 平和への願いのこもる盆踊り　一笑
地 踊りの輪皆なじみに強えにけり　太郎
人 人の和に万象さかゆ盆おどり　すみれ会
　 踊り姿見せ合い帯も結び合い　閑汀風女

佳作
一人だけ帰省出来ぬ子盆浴衣
かわほりや人の気配の縁先きに
遠花火居ながら見ゆる秋まつり
蚊やり火のをり〳〵燃ゆる夜の風
おそろいのたもとのまふや夏の風
ゆかた着て古里人に打ち交り
橋涼しランカンに背の荷をもたせ
盆用意大風呂敷に何や彼や
蜩や松に風なし蝉の声
倉屋根に夕立すぎて月あかり
亡き母の思いで踊る盆踊り
夕立や晴れて涼し盆踊り

PTAのあり方

鈴木松次

さてPTA発足以来十数年学校教育伸展に寄与する処実に多かったと思います。然し今日よく「PTAの危機」とか「曲り角に来ているPTA」等PTAの在り方を問題にしている声も耳にしますが其れは一体何に起因しているのでしょうか、其の一つにPTAが経済的援助団体化しているのではないかと云う事が挙げられます。

PTAは父兄と教師が手を取り合って児童生徒の幸福のために活動することを第三主義としていることは今更云々するまでもありません。経済的―経費的な面は学校設置の責任者たる地方自治体が負担しなければならない事も之又当然であります。然しながら戦後の荒廃から立上った新教育推進のためには教材は勿論のこと施設設備の充実整備することが余りにも多く且つ緊急な問題でありこれこそ当然なさねばならぬ地方財政が余りにも貧困なため勢いPTAの拠出に依存する―PTAを利用する様になり金を出すことがPTA活動の一般的活動となった観があります。

かくて父兄に過重の負担をかけつつも学校の施設設備は勿論教師の援助的な面にも多額の出資を余儀なくされそれが多い独立採なPTAであるかのような誤解さえ生じているのではないかと思われます。この様なことは学校経営を設備等の面で大きくし其の意味では機会均等の原則にも反することとなり又父兄と教師との関係に好ましくない空気も生じかねません「PTA」ではなくて「BTA」などと悪口を云われるゆいんでもあります。PTAは予算の半分以上を学校後援に当てPTA独自の活動が出来ない。この学校寄附をなくし公費負担に切替えると云う地方財政法の一部が改正され昨年四月から市町村立の学校でPTAの金で先生や事務員を雇ったり校舎の臨時修繕費を支払ったりしてはいけない、と云う事になりました。

国民年金法大幅に改善

国民年金法は昭和三十四年四月にできましたが、それから満三年たちました。その間に法律の内容も二回にわたって改正され、一時いろいろ批判されました点も殆んど改善されました。

次に今年度に入ってからの改正の要点をお知らせします。

保険料を免除された人にも国庫負担がつくようになった

いままでは保険料を免除された人は年金額支給の計算期間に入らなかったが、こんど改正になって保険料を納めた人と同じように同額の国庫負担を行うことになりました。

本人所得制限の緩和
―福祉年金―

本人に十三万円以上の所得があると福祉年金がもらえなかったのが今年の五月からは前年の所得が十五万円をこえなければ、もらえることに制限がゆるめられました。

公的年金と福祉年金の両方がもらえる

今年の九月までは、福祉年金の額をこえる恩給とか厚生年金などをもらっている人は福祉年金をもらえませんが、十月から二万四千円未満の公的年金をもらっている人は、二万四千円と現にもらっている公的年金の差額を福祉年金の額の範囲内でもらえることになります。なお戦争公務による年金をもらっている人はこの二万四千円が七万円まで引きあげられました。

配偶者公的年金受給による制限の廃止

受給権者の配偶者が六千円以上の恩給とか厚生年金などをもらっている場合は、福祉年金の額について一部支給停止が行われていましたが今年の十月からは、この制限がなくなって、全額支給されることになりました。

子供の加算額引上げ

母子、準母子福祉年金で子供の加算額が二千四百円から四千八百円に引上げられました。

汽車の名前とそのつけ方

越後川口駅長

去る六月十日列車の時刻改正がありました。そして当上越線に「こだま」級の特別急行列車が運転され新潟上野間も僅か四時間四十分と短縮されしかも快適な旅行が出来るようになりました。その他急行列車も増発されて今までのように立ち通しということもなくなったようです。

全国には沢山の列車が網の目のように走っています。これには全部名前がついていて名無しの権平は一つもないのです。

さてそこで汽車の名前とそのつけ方を知っておくことも面白くまた何かの参考になると思いまして書いてみましょう。

汽車の名前ですがこれは符合であって何でもよい訳ですが例えば花の名、動物の名又は地名とかを選んで付ければよいのです。然し固有名詞ですとだんだん列車の数が増加して来ますと終には名前が品切れとなってしまいます。それで誰れでもわかり易く数も無限であって且つ順序を表わすことの出来る数字で番号を用いることになっている訳です。御承知の方もありましょうが第七四二列車、第五九一列車という具合に呼んでいます。一方特別な列車には日本海、苗場、佐渡というような愛称をつけて列車名の代りに呼んでいる列車もあることは御存じのとおりです。

次に列車番号ですが何のような付け方をしているかと申しますと、第一に線別に百台の数字を決めておきます。例えば上越線では七〇〇を信越線では三〇〇、羽越線では八〇〇というように使い分けをしています。第二には十位以下の数字ですが旅客列車ですと一から四九まで、貨物列車は五〇から九十九までの数字を用います。従って第七四五列車といえば上越線内を運転する旅客列車で、三五〇列車といえば信越線の貨物列車ということが直ぐわかります。第三に以上線別や旅客、貨物列車の区別がわかりましたが上り下りは何うなっているでしょうか、それは上り列車は偶数下り列車には奇数を用いるのが原則であります。従って番号を見れば上り列車か下り列車かの判断は直ぐつく訳です。

次に上り、下りは何を標準としていうのかといえますと、各線区の起点を基準として起点から終点に向う列車は下り、この反対を上りと呼んでいます。例えば東海道本線は東京が起点ですので東京へ向って走る列車は上り列車ということになります。

以上で一通りのお話をいたしましたが尚この外には不定期列車といって予め時刻を決めて必要によって運転する列車又は臨時列車等があってこれ等には千台を冠して定時列車と区別しています。

このように一見非常に複雑のように思われますが整然とした取極めによって日常の作業が間違いなく順序よく行われています。毎日多くの列車を運転してその取扱、打合、指示等は総て列車番号を使用して誤り無きを期しています。

皆様も以上のことを覚えられると駅等といろいろの話をする際非常に早く且つ能率があがり間違いも無くなると思います。

最後に例外として車番号を使わない列車があります。これは陛下の御乗車になる列車でこの場合は「御召列車」と呼んでいます。

多くの喜怒哀楽を持つ人々を乗せて無心に走る列車にも一歩踏入れるといろいろ約束ごとのあることがおわかりになられたことと思います。

では次の機会に列車のダイヤや運転の方法等についてお話することと致します。

父母に対して感じたこと

川口中三C 星野祥一郎

ぼくの家は農家である、朝から晩まで働く父と母は毎日田んぼや畑仕事で一生懸命である父に父らしい仕事があるし母には母でなくてはならない仕事がある。父を見ても一つの仕事にかかってもしんけんに休みなしで働いている。父はどんな楽しみがあって働いているのだろうか。僕達は修学旅行だの運動会、遠足とこんな行事があるのに父は何の楽しみがあるのか僕が卒業するのを楽しみにしているのだろうか、僕には父の楽しみが良くわからない。

父の働いている時の顔を見ても汗がだくだくとにじみ出ている。父が休んでいる姿を見ると本当に淋しそうだ何を考え込んでいるのだろう、父の姿を見て僕は少しでも手伝いがしたくなる。父は淋しいばかりではない僕達に仕事を教える時のファイトは猛烈にすばらしいものだ、父の過去を思うと戦争で体をこわし無理な仕事が出来ない父にとっては本当に可愛想だと思う。父の手足を見るとわれ目が沢山あって丁度鬼の手足のようだ。手で何かを持ったりするからなのだろうか。僕は父のこの手足を見るたびに一日一日の生活がどんなに苦しいものであるかが心にしみじみと感じる。

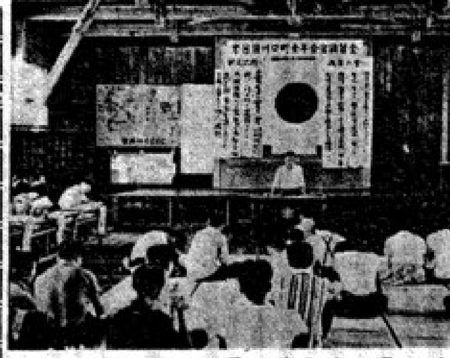
体の方を見ても父は前に骨の手術をしたことがある。こんな傷あとがあるのは小さい頃から余程きたえられたのではないのだろうかと思った。

母は毎朝早く僕達が寝ている頃から起きて飯仕事をしているから、つかれているけれども僕達より多く働いている。母は僕達より早く起きて一生けん命に仕事をする。母は毎朝早く起きるのは習慣がついたのだろうか、今は寧要を飼っているから夜は十一時頃まで起きている朝は五時頃起きてせっせと働いている。母は毎朝早く起きてねむくないのだろうか、いやねむいにちがいない、ねむいのをがまんするのが親らしい所でないだろうか。母はこんなに仕事をするのは自分のためになるから働いているのだろうか、それとも母は僕達を良い子にさせたいから働いているのだろうか、母は自分の子がよその子に負けないようにさせたいから一生けん命に働いているのだと僕は思う。母は僕が小さい頃とてもめんどうを見てくれた。これだけ働いて僕達をめんどうをみてくれた母にはただ一年に一回の母の日には何もしてやれなかったのは母に対して本当に悪るいと思った。小さい頃はこんな苦しみは本当に何もしらないで遊んでいてほんとに無邪気だったが大きくなるにつれてこの父と母の苦しみがわかった。

僕はこれだけ大きくなったのだと思った。

今までに余程父や母の世話になった。これからは父や母を助ける時期が来る。僕達はこれだけ父母の世話になって大きくなったのに親のいない子供達は本当に可愛想だと思う。

第八回川口町青年合宿講習会



一、日時 八月十九日～二十日
一、会場 県水小学校

主旨

激動する社会の中で吾々青年は何を考えどこを見つめて生きたらよいのだ。新しい農政の一環として打ち出された農業基本法は危機に立つ農業を新しい方向に発展させる考え方として注目を集めているがそれとて農民を救う抜本的な対策として吾々に無限の将来を約束してくれる条件は極めて少ない。だが吾々はその宿命に負けてはならぬ。あきらめてはならない吾々青年のもつ逞しい肉体と精神は豊富な可能性を約束しているのだ。吾々はここに広い視野の上に立って農業を見つめて将来を見つめてガッチリとスクラムを組み各団体の交流を深めてお互いに励まし合い切磋琢磨して山積する障害を克服し、自らの道を開拓しようとするものである。それが農業を守り町を興す基となるのだ。

研究課題
一、冬季出稼と今後の方向
二、新しい川口町の建設はかくありたい
三、民主的な家庭生活を築き上げる為の青年と婦人の役割

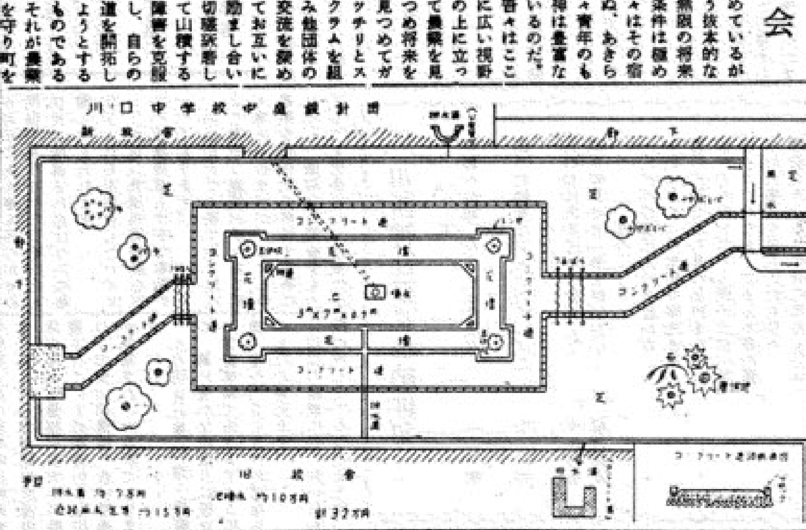
右の二日間六十余名の青年が三分科会に分れて研究討議し分科会の発表総合討議、総合反省会等を積重ね有終の美を飾って終了した。

味合いのある言葉

共済事業は、軽業師の下に張られた網のようなものである。落ちなければ幸いだが落ちたとき怪我せぬよう工夫するのが網の効用である。

賀川豊彦

中学校十五周年記念事業着々と進む



川口中学校創立十五周年記念事業は、その後当町西川口出身東京池袋在住の佐藤悌二郎氏より十万円の寄附を受けたのを始め、各町内よりの寄附金も委員各位の努力と町民の皆さんの御協力によりまして、次々と納入されて居ります。

工事につきましては八月五日西川口小宮山工務が請負われてから、天候に恵まれ、コンクリート工事もその大半を完了するまでに進展いたしました。

更に又町当局の理解ある計らいにより、中庭の排水工事も付帯事業として実施して頂くことに決定致しました。

次に本記念事業の大要を記したいと思います。

記

一、池及び噴水工事一式（佐藤氏寄附）十万円
一、中庭及道路工事一式（PTA後援会）十五万円
一、中庭排水工事（町予算）七万円
計 三十二万円

障害を克服して つづき

……青協活動のあい路……

川口青協 角張喜一郎

年少者はリクレーション的な活動を望み年長者は農村経済、農業経営や政治等に興味を持ちそれを活動の中にとり入れたいと願い実際活動の場面で両者の間にこれだけのギャップが生じているのである、こうした中にあって少しでも多くの青年の要求を満たし活動を正しく前進させ組織を強めて更に活動を盛り上げることは難苦に尽し難いむずかしさがある。従って人集めの手段としてリクエーションをとり上げそれのみに終ってしまう事も多くそれが大きな批判の対象となっていることも否めません、が、しかし義理や義務感につきまとわれた厳しい毎日の生活の中にあって少しでも自分達の自由な空間を作りそこに解放感を求めようとする気持の表われがそこにある事も見のがせない点である。第三に吾々が活動を展開して行く上に最も大きな障害となっているのが出稼ぎの問題である。吾々の一番の活動期である冬期間に会員の九十%以上が県外に出て行く為、活動は停止し、春になって帰郷しても半年のブランクをとりもどす為に多くの時間を必要とし中には季秋の農繁期にほんの二ケ月程帰郷するだけで一年の大半を他郷で働く仲間もあって活動は停滞し一年の事業のほとんどが夏期に集中している為、個々の負担は過重となり、その結果脱落者が生じてくるのである。又出稼ぎによる空白は吾々の活動を断片的なものにしてしまい同じ事をくり返して具体的な成果を生み出すことが出来ない原因にもなっている。この出稼ぎがもたらす影響は吾々青年のみならず広く地域社会全体に多くの暗い影を投じており、これの解決に根本的な対策を講ずる必要性を痛感するのである。婦人会は吾々青年より更に生活に直結した共通な課題（食生活、育児等）があるとは言え冬期間をふるに活用しより良い成果を挙げつつある事実を思う時吾々にとってこの間のブランクはあまりにも大きいのである。最後に町全体の地域が広い為に中央より遠い地区の会員の負担が大きくなり、自然活動から遠ざかってしまうという地域的な制約や会員の減少による部落単位の活動の停滞、個々の欲求や要求が充たされない不満を感じ乍ら義理で入会している会員の多い事等から町全体を対象としていくつかのグループ活動、サークル活動に昇華させ会員個々の欲求を充し、興味を生かした活動にして魅力ある青年団活動にしてゆく事が今後の課題なのである。

（次号へつづく）